JTSU-E SHINJUKU Bra. INFORMATION
Think Big!
輸送サービス労組 新宿支部
JTSU-E SHINJUKU BRANCH
2024.12.21
No. 103
新宿支部の公式 Twitter もチェック!

経産省が転換する。再生可能エネルギーと原子力に関して、今後は「最大限活用」へ!!

“脱炭素と成長を目指す経済活動”で、将来の電源は何が良いのだろうか？！

経済産業省は2040年の電源構成について、電力の安定供給と脱炭素化を両立させるため、再生可能エネルギーと原子力を「最大限活用する」と方針を明記し、東日本大震災以降のエネルギー政策からの転換を打ち出しました。　※ 再生可能エネルギーとは、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど。

省エネの進展や人口減で「長期的な電力消費は減る」ことを前提にしてきましたが、今後は生成 Ai や電気自動車・EV の普及により、「電力消費は増加する」としました。ソフトバンクは国内のデータセンターに必要な電力が、2040年には2020年の「20倍超と膨らみ、これは原発30基分」と試算しています。

労連主催「グリーンジョブ研修」の資料の一コマを紹介します。原子力工学者・小出氏は著書で以下を述べています。

確かに（原子力の）核分裂反応は二酸化炭素を出しませんが、その代わり核分裂生成分、つまり“死の灰”を大量に生み出します。二酸化炭素は植物の光合成に欠かせないなど、地球の生命環境にとっては必須な物質ですが、核分裂生成分はいかなる場合においても有害です。（原子力の）核分裂反応というごく限られた過程だけを取り上げて「二酸化炭素を出さない」と主張をし、“死の灰”に目をつぶる議論は間違っています。

2011 年の福島第一原発事故は、日本の社会が経済最優先にした時代の課題を示しました。SDGs を基にした持続可能な社会の創造とそのエネルギーを、私たちも考えていきましょう。